

モニター通信 Vol.12

*「モニター」とは、「環境保全・ごみ減量推進モニター」といい、ごみ減量等に関する研究・活動をするために市民の皆様から募集した方々のことです。

いちのみや530作戦実施中

(2011年2月1日 発行)

☆ペットボトルのリサイクル工場に行ってきました!!☆ リサイクルクルーズ

今年度、一宮市のペットボトルをリサイクルしているウツミリサイクルシステムズ(株)では、このように手作業やたくさんの手順を踏んでリサイクルされていました。

① 集荷



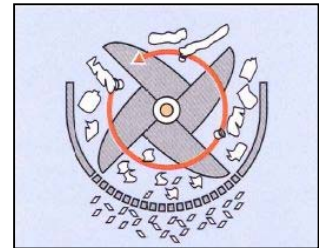
各地から圧縮梱包された
ペットボトルが集まる

② 選別



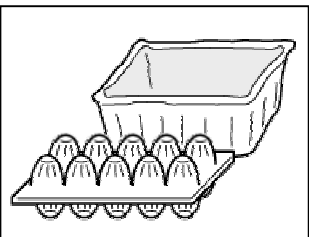
ベルトコンベア上で異物を
除去する(手作業)

③ 粉碎

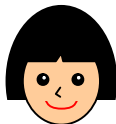


細かく砕く

⑧ 利用



卵のバックや食品容器、
繊維製品などに利用される



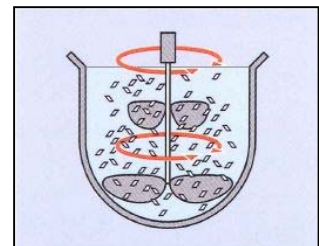
リサイクル工場
施設の担当の方に
聞きました。

ボトルの中に ごみ は入れないでね!
塩ビボトルやカラーボトルなど、
ペットボトル以外は入れないでね!

できれば ラベルは はがしてね!

ペットボトルのラミネ容器からも
きちんとビーズはのぞいてね!

④ 洗浄



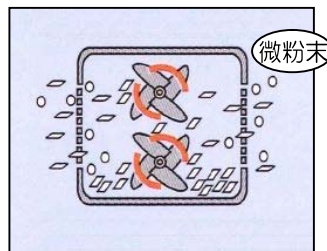
汚れをきれいに洗う
※ 粉碎と洗浄を3回繰り返す

⑦ 製品出荷



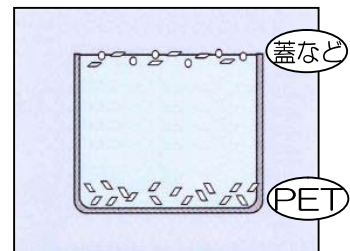
樹脂原料(フレーク)として
出荷する

⑥ 風選分離



風の力を利用して
微粉末などを除去する

⑤ 比重分離



重さの違いを利用して
蓋やラベルを分離する

工場見学を終えて・・・ ＜メンバーからの感想＞



ペットボトルは今や大変身近な物であり、分別も比較的やり易いと思っていましたが、市町村や地域によって分別の状態にまだまだ大きな差があることを知り、驚きました。

ラベルをはがす、中に“ごみ”（タバコ・土や砂・アルミ製のふたなど・・・）を入れない、ペットボトル以外の物を入れない、などの最低限のマナーや一人ひとりの心掛け一つでリサイクル活動は大きく左右され、どんどん改善されていくことを実感。市民の皆さまにも是非お伝えしたいと思いました。



大騒音の工場内、手作業で異物を取り除く工程に驚き、屋外にスクラップされた膨大なペットボトルの山に圧倒され、改めて使い捨てが非常にもったいないという気持ちが湧きました。

「限られた資源をたいせつに、未来に繋げていく」その目的が明確なら、老若男女を問わず、これから分別が習慣化されていくと思います。

私たち市民の今のひと手間が、次の世代に物をたいせつにする心を育てているとも感じます。



ペットボトルのリサイクル工場を見学して、数えきれないほどたくさんのペットボトルを手作業で分別しなおす姿をこの目で見ても、一人ひとりが分別に対する意識をしっかりと持たなければ・・・と思いました。

出して終わりではなく、その先も考えて“ごみ”は出さなければいけませんね。



ペットボトルだけのはずなのに、缶とかビンなど色々なものが混ざっていて、分別はまだまだだと感じました。（一宮市のもものだけではないですが）

おかげで、より分ける工程がたくさんあって、リサイクルするのも手間が掛かって大変なんです。もっと分別徹底に取り組まないといけないと思いました。



とても身近なペットボトル。“ごみ”に出す時もきれいに洗い、ラベルを取り、ひと手間かけてあげましょう。



ちよつと豆知識



一宮市では、よりよい環境を子や孫の世代に残すため、ペットボトルやプラスチック製容器包装を、容器包装リサイクル法に基づいてリサイクルしています。

リサイクルには費用がかかりますが、容器や包装の製造・利用業者と一宮市を始めとする地方自治体が負担しています。

リサイクル工場は「それぞれの施設ならいくらで処理できるか」という観点で入札し、これらの資源は落札したリサイクル工場ですべて再資源化されます。

ということは、皆さんの家庭から集められた資源が「きちんと分別され・きれいであればあるほど」処理費用が安くすみ、一宮市の財政への負担が少なくなります。

リサイクルにかかる費用は、私たちの大切な税金から負担されています。

分別は皆さんの家庭が第1歩、正しい分別にご協力ください。